第2節　なごや子ども市会

小学5・6年生による「なごや子ども市会」陸前高田市の子どもたちとの交流を重ねる

名古屋市会では、平成24(2012)年から、小学5・6年生を対象とした「なごや子ども市会」を開催している。

子ども市会は、自分たちの住むまちの議会という場を実際に体験してもらうことにより、市政に対する興味・関心を高めることが大きな目的の一つであるが、それに加えて、陸前高田市との交流も大きな柱となっている。

これは、子ども市会の開催が議論された平成24年当時、東日本大震災から間もない時期であったことから、議員から、子ども市会の中で、被災した陸前高田市の子どもたちとの交流を行ってはどうかとの提案がなされたことによるものである。

その結果、「被災地交流の一環として、被災地の子どもたちとの交流を図り、今後の復興をともに願い、メッセージを交換する」ことが、子ども市会の目的の一つとされることとなった。

具体的な交流としては、例年、子ども議員全員によるビデオレターの作成や子ども議員一人ひとりのメッセージを掲載した冊子の送付を行っている。また、「名古屋市と陸前高田市の子どもたちとの交流に関する宣言」も採択されており、陸前高田市の小学生を招いての子ども市会を開催したこともある。

なごや子ども市会の取り組みに対し、陸前高田市の子どもたちからは、返信メッセージが届けられるほか、平成28年には伊藤明彦陸前高田市議会議長が、なごや子ども市会を訪れ、本会議場であいさつを行っている。

今後も、なごや子ども市会を通じて、未来を担う本市と陸前高田市の子どもたちの交流が継続的に行われ、将来にわたって、両市の絆がさらに深まることが期待される。

※ 令和2(2020)年、令和3年については、新型コロナウイルス感染症による影響を総合的に勘案し、子ども市会は開催されていない。

なごや子ども市会の様子

なごや子ども市会の
募集ポスター

名古屋市と陸前高田市の
子どもたちとの交流に関する宣言

私たち名古屋市と陸前高田市の子どもたちの交流は、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災をきっかけに始まりました。

それから今日まで、私たちは交流を重ねてきました。その様子は、私たちが最初に交流を行った名古屋城の銘板に刻まれ、今日、その除幕式にみんなで参加してきました。

「なごや子ども市会」では、東日本大震災を踏まえて、どうすれば地震や津波などによる被害をなくしたり、減らしたりすることができるか、話し合いを行いました。

この話し合いを通じて、私たちは、災害に対する日ごろからの心構えや備えの大切さ、また、避難訓練に真剣に取り組むことの大事さなどを、改めて学びました。

それと同時に、私たちは、住むところは離れていても、お互いに体験したことや知っていることを教え合い、交流することで、ともに学び、成長していけることを感じることができました。

そこで、私たちは、これからも交流を続け、お互いのこと、お互いのまちを思いやりながら、ともに学び、成長していきます。

以上、なごや子ども市会と陸前高田市の小学生を代表して、ここに宣言します。

平成 25 年 8 月 3 日
なごや子ども市会
陸前高田市小学生代表

名古屋市と陸前高田市の
子どもたちとの交流に関する宣言
（平成25年8月3日）

第6委員会
陸前高田市のみなさん、お元気ですか？私は、陸前高田市のことをインターネットなどでたくさん調べました。2年たった今も復興にむかって負けずに、がんばっている人がたくさんいるんだと感じました。ぜひ私も、みなさんの力になりたい！応援したい！と強く思いました。どんな、悲しいことやつらいことがあっても、味方がここにいます！がんばってください

第1委員会
陸前高田市のみなさん、こんにちは。
多くの犠牲者を出した東日本大震災。陸前高田市のみなさんが、きせきの一本松のように、震災のつらさにまけず前を向いているすがたに心うたれました。少しずつ復興している陸前高田市を、震災前のにぎやかな町にもどせるように、募金をしたり産業の支援をしたり、私たちができることは、積極的に取り組んでいきます。陸前高田市のみなさんが笑顔あふれる毎日を過ごせるように願っています。

第1委員会
陸前高田市のみなさん、こんにちは。
私は名古屋城に行ったとき、屋台で陸前高田市の特産物が売られていることにうれしく思いました。なぜなら名古屋市と陸前高田市の絆が深まっている証拠だと思ったからです。私はまだ陸前高田市に行ったことはありませんが、遠くからはなれていてもずっとおうえんしています。これからもがんばってください！

第6委員会
あの3.11の日、僕は下校中で揺れには気付きませんでした。でも、家に帰ったら家族から水槽の水がこぼれそうなくらい波打ち、照明が大きく揺れ、家がギシギシと鳴ったことを聞きました。テレビでは津波の映像が流れ、とても恐ろしかったことを覚えています。あれから3年が経ち、僕は6年生になりました。僕の家の冷蔵庫には新聞にのっていた一本松の写真がずっと貼ってあります。僕にとっても希望の木です。僕たちも、みなさんも、大人たちに負けないくらい力強く未来を切り開いていきましょう。あの一本松のように。

なごや子ども市会での交流

陸前高田市へ送られたメッセージ

第3節　友好都市協定の締結

両市の信頼関係から友好都市協定を締結 市民どうしの末永い交流へ

本市と陸前高田市は“行政丸ごと支援”を契機とした子どもたちの交流や産業支援、医療支援などの様々な取り組みを通じて、市民の交流も広がるなど、強い信頼関係を築いてきた。

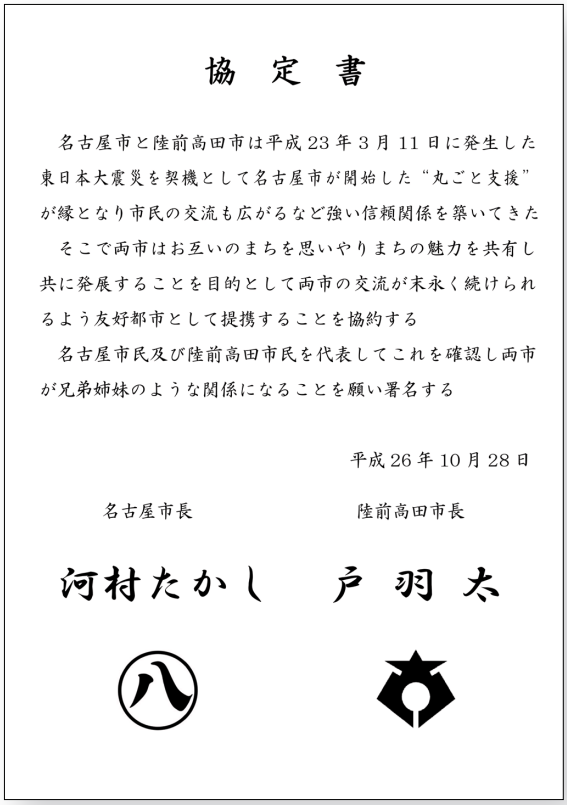
そうした中、平成26（2014）年2月、陸前高田市の戸羽市長から両市の交流が末永く続けられるよう、本市との協定締結の提案がなされ、これを受けて同年4月に「名古屋市・陸前高田市都市間協定検討会議」を設置した。各局や陸前高田市と具体的な交流内容等の協議を重ね、協定締結に向けて計4回の会議を開催した。

平成26年10月28日、両市の市長及び議長出席のもと、名古屋市公館において友好都市協定締結式が開催され、被災した高田松原の松の板で作られた協定書に両市長による署名がなされ、この協定に基づく新たな交流事業が展開されていくこととなった。

本市、陸前高田市ともに国内の他自治体と友好都市となるのは初めてのことであり、今後もお互いを思いやり、まちの魅力を共有し、ともに発展し、兄弟姉妹のような関係になることを願った。

協定締結式

被災した高田松原の松の板で作られた協定書



協　定　書

名古屋市と陸前高田市は平成23年3月11日に発生した東日本大震災を契機として名古屋市が開始した“丸ごと支援”が縁となり市民の交流も広がるなど強い信頼関係を築いてきた

そこで両市はお互いのまちを思いやりまちの魅力を共有し共に発展することを目的として両市の交流が末永く続けられるよう友好都市として提携することを協約する

名古屋市民及び陸前高田市民を代表してこれを確認し両市が兄弟姉妹のような関係になることを願い署名する

平成26年10月28日

名古屋市長　　陸前高田市長

河村たかし　　戸羽太

協定書の文章

名古屋市消防音楽隊がお祝いムードを盛り上げた

第４節　郷土芸能の相互披露

友好都市協定により郷土芸能を相互披露 お互いの芸能に親しみ、文化交流を図る

本市と陸前高田市が友好都市協定を締結したことを受け、平成27（2015）年度より、両市の催事において郷土芸能の相互披露を行うことで、お互いの文化をより身近に感じ、市民レベルでの交流を図っている。

郷土芸能団体の派遣は、両市から隔年で相互に派遣しており、各年度ごとの団体名・参加行事・訪問時期については、以下の表のとおりとなっている。

なお、令和2（2020）年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、郷土芸能団体の派遣に代えて、過去5年間の取組みを伝えるパネル展示を陸前高田市で実施した。

陸前高田市の槻沢芸能保存会（平成２７年１０月　名古屋まつり）

郷土芸能の相互披露の実績

区分	郷土芸能団体（所在地）		参加行事	出演日
平成27年度	槻沢芸能保存会	（陸前高田市）	名古屋まつり	10月17～18日
平成28年度	琴伝流玉琴子Dファイブ（大正琴団体）	（名古屋市）	陸前高田市産業まつり	10月30日
平成29年度	金成百姓踊り	（陸前高田市）	名古屋城春まつり	3月25日
平成30年度	狂言共同社	（名古屋市）	陸前高田市産業まつり	11月3日
令和元年度	赤磯太鼓－ARATA－	（陸前高田市）	名古屋まつり ぼうさいこくたい2019	10月19日
令和2年度	陸前高田市中心市街地の商業施設において、過去5年間で陸前高田市と名古屋市が実施した芸能団体による郷土芸能の相互披露の様子を紹介するパネル展を実施			

名古屋市の大正琴演奏（平成28年10月 陸前高田市産業まつり）

陸前高田市の金成百姓踊り（平成30年3月 名古屋城春まつり）

名古屋市の狂言の披露（平成30年11月 陸前高田市産業まつり）

陸前高田市の赤磯太鼓－ARATA－（令和元年10月 名古屋まつり）

第5節　市民美術展での相互展示

両市の市民美術展などで文化交流 市民の優秀作品を相互に展示し合う

両市で毎年開催している「名古屋市民美術展」、「陸前高田市民芸術祭」において、市民の優秀作品を相互に展示することで文化交流を図ることを目的として、平成27(2015)年度に両市で展示を実施。平成28年度からは隔年で両市の優秀作品を相互に展示している。

開催実績

区分	会場	作品	期間	出品数・来場者数
平成27年度	陸前高田市民芸術祭	名古屋市民の優秀作品	11月1日～3日	出品　16点 来場者数　2,213人
	名古屋市民美術展	陸前高田市民の優秀作品	11月17日～22日	出品　16点 来場者数　3,222人
平成28年度	名古屋市民美術展	陸前高田市民の優秀作品	11月22日～27日	出品　10点 来場者数　3,420人
平成29年度	陸前高田市民芸術祭	名古屋市民の優秀作品	11月3日～5日	出品　14点 来場者数　3,413人
平成30年度	名古屋市民美術展	陸前高田市民の優秀作品	11月20日～25日	出品　10点 来場者数　4,110人
令和元年度	陸前高田市民芸術祭	名古屋市民の優秀作品	11月2日～4日	出品　15点 来場者数　1,984人
令和2年度	名古屋市民美術展	陸前高田市民の優秀作品	11月17日～22日	出品　10点 来場者数　2,858人

名古屋市民美術展

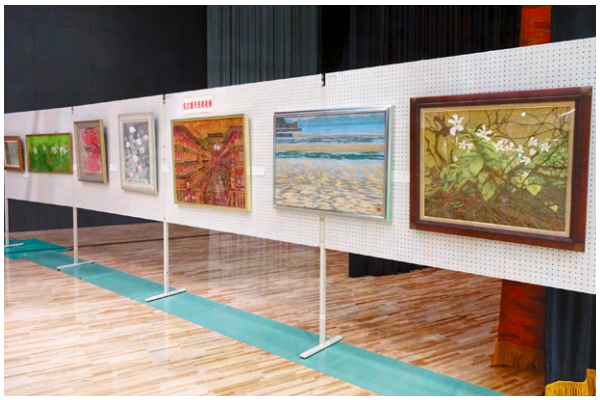
名古屋市民美術展での陸前高田市民優秀作品の展示

実際に展示された陸前高田市民の芸術作品

陸前高田市民芸術祭

陸前高田市民芸術祭
（平成29年）

陸前高田市民芸術祭
（令和元年）



陸前高田市民芸術祭で実際に展示された名古屋市民の芸術作品

第6節　市民交流事業補助制度

市民レベルでのさらなる交流を促進 6年間で延べ18団体に交付

本市と陸前高田市で締結した友好都市協定の精神に則り、両市における市民交流を促進するため、平成27(2015)年度に名古屋市及び陸前高田市市民交流事業補助制度を創設した。

この制度は、市内に主たる活動の場を有し、組織的に、かつ、1年以上継続して活動していると認められる団体が実施する陸前高田市民との交流事業に対し、会場使用料や交通費等、事業の実施に必要な経費の合計額の2分の1以内で、10万円を超えない額を助成するものである。補助事業の選定にあたっては、交流事業が両市の交流を促進するものか、また、団体の事業遂行能力など、補助審査委員会における審査を経て、交付決定を行っている。なお、平成27年度から令和2(2020)年度までに、延べ18団体に対し、合計148万円を交付している。

市民交流事業補助制度を利用し
交流を実施した演奏集団「まつり座」

陸前高田市民との交流

演奏集団「まつり座」の交流

演奏集団「まつり座」は陸前高田市で開催されている「うごく七夕まつり」にて、大石祭組の山車引きに参加した。まつり以外の時間でも陸前高田市の方々と交流会を実施するなど、お互いの交流を深めている。

「がんばっぺし陸前高田」の交流

「がんばっぺし陸前高田」の今井さんは、震災後から陸前高田市社会福祉協議会へ、毎年寄附を通じて交流を継続している。協議会は寄附金をもとに、福祉活動用のマイクロバスを買い替え、地元で活用されている。

今井さんの寄附金をもとに購入されたマイクロバス

菊井中学校の代表生徒と陸前高田市民との交流

演奏集団「まつり座」が参加した
陸前高田市の「うごく七夕まつり」

菊井中学校の代表生徒と陸前高田市の中学生との交流

第７節　博物館の交流

企画展「陸前高田のたからもの」の開催 被災文化財の修復の実状と成果を紹介

名古屋市博物館と陸前高田市立博物館との交流は、名古屋市博物館で平成27（2015）年度に行った企画展「陸前高田のたからもの」（平成28年2月27日～3月27日）に始まる。

東日本大震災において、陸前高田市立博物館などの博物館施設が被災し、幾多の文化財が津波の被害にあい、その後、文化財レスキュー等により文化財が救出され、修復等が行われている。この展覧会は、陸前高田市が所蔵する被災文化財の修復の実状と成果を紹介するものであり、同時に、地域の記憶を伝えていく上での文化財の重要性も紹介した。

展覧会の開催にあたっては、本市の学芸員が陸前高田市に赴き、出品資料の選定や調査を行うだけでなく、文化財の修復やその意味について意見を交換することができた。

被災した陸前高田市立博物館（平成２３年３月２５日撮影）
出典：いわて震災津波アーカイブ／提供者：岩手県立博物館

文化財レスキューの活動
出典：いわて震災津波アーカイブ／提供者：岩手県立博物館

特別展「陸前高田のたからもの」の様子

友好館提携で技術・研究の共有、人材育成へ 歴史・文化の拠点、博物館を通じた交流促進

前述の展覧会を契機として、名古屋市博物館と陸前高田市立博物館は平成29(2017)年2月17日に友好館として提携した。陸前高田市が実施している被災文化財の保存技術や研究成果の共有、人材の育成・交流を行うことで両館の事業の発展を推進するとともに、相互理解を深めることを目的とする。名古屋市博物館で行った調印式には両市の教育長、博物館長が出席し、今後の展望を確認した。

前述の友好館提携の目的に沿って、平成29、30年度には、本市から陸前高田市に学芸員が赴き、陸前高田市で行われている被災文化財の修復作業や災害伝承の調査を行った。

こうした調査を踏まえ、伊勢湾台風60年事業として名古屋市博物館でおこなった災害史の展覧会「特別展 治水・震災・伊勢湾台風」(令和元[2019]年9月21日～11月4日)において、陸前高田市立博物館の取り組みを紹介した。

また、関連事業であるシンポジウムにおいて、災害による文化財への被害と博物館の役割を陸前高田市の学芸員が発表した。さらに、愛知県内の学芸員向けに被災文化財の応急処置の講習会も行った。

こうした博物館という歴史、文化の拠点を通じて、両市の交流や相互理解に貢献している。

友好館提携(両市教育長・博物館長)

「治水・震災・伊勢湾台風」展 関連事業ワークショップ

「治水・震災・伊勢湾台風」展の様子

第８節　議会の交流

黙とうや追悼式参加、花のプランター贈呈など陸前高田市・陸前高田市議会と継続的に交流

名古屋市会では、毎年、東日本大震災が発生した3月11日の発災時刻に議員総会等において、黙とうを捧げるとともに、議長等が陸前高田市の追悼式に参加している。また、行政視察等による訪問、「なごや子ども市会」の開催、ガーデニングクラブによる「心にはなをプロジェクト※」など、陸前高田市及び陸前高田市議会と継続的な交流が行われている。

※ 陸前高田市の仮庁舎に季節に応じた花苗を植えたプランターを贈呈するもの。

名古屋市会ガーデニングクラブから
陸前高田市役所に贈られた花

両議会による相互訪問を推進し人と人とのつながりを深める

平成23（2011）年秋に、戸羽太陸前高田市長と伊藤明彦陸前高田市議会議長が初めて名古屋市会を来訪し、議員総会においてあいさつが行われた。その発言の中では、本市職員を陸前高田市へ派遣し、行政機能の回復のために全面的に支援を行っていることや、陸前高田市の中学生の本市への招待などについて、感謝の言葉が述べられた。

翌平成24年には、伊藤議長から、両市のますますの友好と末永い交流を図る観点から、名古屋市会議長と議会運営委員会委員長を陸前高田市に招き、復興状況の調査とともに、議会レベルでも両市の絆を一層深め、情報交流を行いたい旨の申し入れがなされた。

議員総会での伊藤陸前高田市議会議長のあいさつ

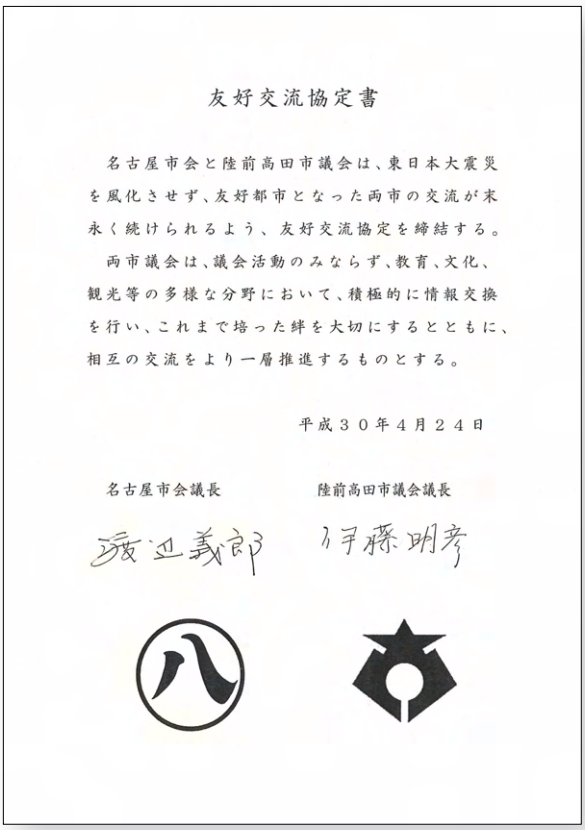
それを受け、中川貴元名古屋市会議長とふじた和秀議会運営委員会委員長が陸前高田市に赴き、議場において、意見交換を行った。その中で、中川議長から、「なごや子ども市会」を開催し陸前高田市の子どもたちと交流を行う旨を伝えるとともに、陸前高田市の高校生を対象とした名古屋市立大学看護学部への特別入試枠を導入することが提案された。

東日本大震災を風化させない取り組みと相互交流を目指し友好交流協定を締結

平成29（2017）年に伊藤議長が本市を来訪した際、両市の交流が末永く、より一層深まり、両市議会として東日本大震災を風化させない取り組みができないか、さらに、これまでの交流を一歩進めて、両市議会で友好交流協定を締結し、相互交流を進めてはどうかとの話題に至った。

それを受け、平成30年の議会運営委員会理事会において、渡辺義郎名古屋市会議長から、協定締結に向けた提案がなされ、最終的には、渡辺議長と各会派の代表が陸前高田市で行われた友好交流協定締結式に出席し、名古屋市会では初めてとなる他都市議会との友好交流協定が締結された。

その後、陸前高田市議会の伊藤明彦議長、及川修一副議長、各会派の代表が名古屋市会を訪れ、高田松原の被災松を使用した記念プレート（友好交流協定書の内容が刻印されたもの）が贈呈された。



友好交流協定書

名古屋市会と陸前高田市議会は、東日本大震災を風化させず、友好都市となった両市の交流が末永く続けられるよう、友好交流協定を締結する。

両市議会は、議会活動のみならず、教育、文化、観光等の多様な分野において、積極的に情報交換を行い、これまで培った絆を大切にするとともに、相互の交流をより一層推進するものとする。

平成３０年４月２４日

名古屋市会議長　渡辺義郎

陸前高田市議会議長　伊藤明彦

友好交流協定書

さらなる交流に向けて機運が高まる超党派の公式代表団派遣など交流の充実へ

令和元（2019）年には、陸前高田市議会の福田利喜議長と伊藤前議長が名古屋市会を訪れ、丹羽ひろし名古屋市会議長、岡本やすひろ名古屋市会副議長、各会派の代表と意見交換を行った。

令和2年には、福田議長から丹羽議長へ、陸前高田市への招請に関する文書が届いたことを受け、議会運営委員会理事会において協議が行われた。その結果、名古屋市会として超党派の公式代表団を派遣することを前提とした実施方針が決定されるなど、今後も、両市議会間において、より充実した交流が期待される。

友好交流協定締結式

記念プレートの贈呈式

第9節　市民交流団の派遣

防災・文化・産業・スポーツの4分野で市民交流団が令和2年度からスタート

本市は陸前高田市との友好都市協定に基づき、陸前高田市と様々な交流の取り組みを行ってきた。

令和2(2020)年度からの新たな取り組みとして、本市から陸前高田市へ防災・文化・産業・スポーツの4つの分野の交流団を派遣することとし、それぞれの市民の活動を通じて、両市の市民や事業者、団体との親交を深めた。

文化交流（令和2年10月）

令和2年度の取り組み

分野	時期	主な内容
文化交流	令和2年　10月12日～14日 令和3年　3月3日～5日	両市の交流10年を記念した踊り曲の共同制作
産業交流	令和2年　11月5日～6日	まちの賑わいづくりに向けた現地事業者との意見交換等
防災交流	令和2年　11月13日～15日	被災経験・活動事例の発表　意見交換会 沿岸地域での津波避難体験　陸前高田市長等による講話
スポーツ交流	令和3年　2月6日～7日※	サッカーの交流試合※ 両チームによるメッセージの交換及び交流を記念したペナントの制作

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

防災交流の参加者（令和2年11月）

防災交流

各区の災害ボランティアなど33名を派遣 現地に学び、地域防災力向上を図る

令和2(2020)年度の防災交流においては、陸前高田市から学んだ地域防災の知識や教訓を本市に持ち帰り、地域防災力の向上を図ることを目的に、各区で活動する災害ボランティア31名と大学生消防団2名を派遣した。

1日目は陸前高田市内にある東日本大震災津波伝承館の施設内を解説員による案内を受けながら見学し、三陸の津波災害の歴史や東日本大震災の教訓について学んだ。

2日目は防災課長、元米崎中学校校長、陸前高田市長の3名の講話を聴講した。防災課長からは震災の検証でまとめられた教訓や次の災害への備えについて、元米崎中学校校長からは震災発生後3日間に実際に起こった出来事に対して、被災地の中学校の校長という立場からどのように対処されたかについて、陸前高田市長からは津波被害のシミュレーションを鵜呑みにしてしまったために被害が拡大してしまった教訓を踏まえ、想定外の災害が発生することを想定して置かれた状況によって正しい判断をすることの重要性について講話をいただいた。

また、両市の市民による被災経験・活動事例の発表及び意見交換会も行った。

その後、沿岸部における津波避難体験や、津波到達地点に桜を植樹する活動を行っている現地NPO法人の方からお話を伺い、事業実施後、参加者からは「実際に現地を訪れ意識が高まった」、「訪問で得た学びを地元で共有したい」といった声が聞かれるなど、両市における防災分野での交流の広がりにつながっていくものと考えている。

東日本大震災津波伝承館で解説を聞く

被災物の展示に衝撃

被災した市長の話を真剣に聞き入った

事例発表会では活発に意見が交わされた

津波避難路を体験

低地から高台への経路を歩いた

津波到達点に桜を植樹する活動に耳を傾けた

文化交流

交流10年記念、共同制作の踊り曲を完成「いこまいたかた、あばっせなごや」披露へ

令和2(2020)年度の文化交流においては、本市と陸前高田市の交流10周年を記念し、市民同士の交流が末永く続いていくよう、共同で踊り曲を制作し、お互いのお祭り等で踊り合う踊り曲制作プロジェクトを実施した。

令和2年10月、踊り曲の制作に携わる日本舞踊西川流四世家元の西川千雅氏と三味線アーティストのたなかつとむ氏が陸前高田市を訪問し、本市と陸前高田市双方の魅力を盛り込んだ曲にするため、陸前高田市の日本舞踊家の方々と懇談した。

懇談では、陸前高田市の伝統的な踊り曲や地域の祭り、気仙地方の言葉について聞き取りを行い、作曲を行うなかでそれらを取り入れていきたい意向を伝えた。

踊り曲のレコーディング

陸前高田市出身のシンガーソングライター雪音氏に歌い手を依頼し、令和3年2月、オンライン上でデモ曲と踊りの案を陸前高田市の方々と共に確認し、方向性のすり合わせを行った。

翌3月には、陸前高田市コミュニティセンターにてレコーディングを実施した。歌詞の中には両市の交流曲として親しまれるよう「来てけらいん」や「あばっせ」などの気仙地方の言葉や、「いこまい」や「いきゃあせ」などの名古屋弁が織り混ぜられている。

また、これからもこの曲が踊り続けられるよう老若男女問わず様々な方が踊ることを想定し、振り付けは3種類のバリエーションが用意され、陸前高田市の日本舞踊指導者らと実際に振り付けの確認を行った。

完成した踊り曲「いこまいたかた、あばっせなごや」は令和3年3月28日名古屋城春祭りのステージで披露され、披露の模様はYouTubeにて生配信を行い、陸前高田市の方にもお届けした。YouTubeには、生配信のアーカイブや全パターンの踊りを解説した動画もアップロードしている。

名古屋城春祭りでの踊り曲披露

両市の日本舞踊家の交流の様子

踊り曲「いこまいたかた、あばっせなごや」披露のアーカイブと踊りのお手本動画を掲載しているYouTubeチャンネル

産業交流

中心市街地の活性化、産品の販路拡大に向け本市の商店街再生の経験者と意見交換を実施

令和2(2020)年度の産業交流においては、事業者3名((株)ナゴノダナバンク)、経営アドバイザー1名((公財)名古屋産業振興公社)を派遣し、中心市街地の活性化や陸前高田産品の販路拡大に向け、現地事業者や商工会関係者等と意見交換した。陸前高田市側は復興にあたって、中心市街地の活性化が重要と考えており、本市の商店街再生で実績を挙げている(株)ナゴノダナバンクへ派遣依頼があった。

令和2年11月には、両市の産業交流を深めるため、本市の那古野地区の活性化に取り組んでいる(株)ナゴノダナバンクの代表者ら3人が陸前高田市内を視察。中心市街地の出展業者でつくる「高田まちなか会」の会長らと懇談を行い、まちのにぎわいについて意見交換を行った。

今後は令和2年度に派遣した交流団に加え、飲食事業者等を派遣し、陸前高田市の事業者とさらに交流を深めるとともに、陸前高田産品の生産地を視察することで、陸前高田産品の販路拡大、陸前高田市側の求める中心市街地の活性化(出店による賑わいの創出)や陸前高田市への出店を希望する事業者による臨時店舗を出店するイベントの開催を目指すこととしている。

陸前高田市職員による市の概況説明

陸前高田商工会との意見交換

「高田まちなか会」との意見交換

陸前高田市長への表敬訪問

スポーツ交流

サッカーの親善試合による市民交流の企画 やむなく中止も記念のペナントを制作

令和2(2020)年度のスポーツ交流においては、本市から名古屋サッカー協会所属のサッカーチーム(約20名)を派遣し、陸前高田市のサッカーチームとの親善試合等を通してスポーツによる市民交流を図るとともに、震災遺構などを視察することにより、市民に対し、震災を風化させない意識を醸成することを目的とした。

交流団の派遣期間は、令和3年2月6日(土)～2月7日(日)を予定していたが、令和3年1月14日に愛知県に対し緊急事態宣言が発令されるなど、新型コロナウイルス感染症の拡大により、交流団の現地派遣は困難となったため、派遣事業は中止となった。

現地に足を運んでの交流は実現しなかったが、被災地支援オンラインシンポジウムにて両チームのメッセージを読み上げるとともに、交流を記念して、両市の市章の入ったオリジナルペナントを披露した。

スポーツ交流で両市が制作した記念のペナント

オンラインシンポジウムで記念のペナントを披露

試合が予定されていた高田松原運動公園のサッカー場

第10節 「奇跡の一本松」後継樹と「絆の日」

復興と希望のシンボル「奇跡の一本松」枯死を乗り越え、接ぎ木で後継樹育成

太平洋につながる広田湾に面した白砂青松の高田松原は、防潮・防砂・防風のため、先人たちにより約350年に渡って植林されてきた約7万本もの松の木が茂り、国の「名勝」にも指定されていた。

夏には海水浴客で賑わい、松に囲まれた遊歩道は陸前高田市民の憩いの場所として、また、多くの動物や希少植物が存在し、多様な生態系が育まれるなど、高田松原は、まさに陸前高田市の象徴ともいえる存在であった。

しかしながら、東日本大震災の大津波によって、高田松原の松林は根こそぎ波にさらわれ、砂浜も1m近い地盤沈下で失われてしまった。その中で唯一、奇跡的に耐え残った一本の松の木が「奇跡の一本松」と呼称されるようになり、陸前高田市のみならず被災地全体の希望の象徴、震災復興のシンボルとして、広く親しまれることとなった。

その後、高さ27.5m、幹の直径約90cm、樹齢は約170年と言われる「奇跡の一本松」を保護する取組みが続けられたものの、海水の影響により深刻なダメージを受け、平成24(2012)年に枯死が確認された。

しかし、震災直後から市民のみならず全世界の人々に復興のシンボルとして親しまれてきた一本松を後世に受け継いでいくため、モニュメントとして保存整備され、陸前高田市のみならず、被災地全体の復興のシンボルとして今なお、国内外の人々が見学に訪れている。

また、「奇跡の一本松」の子孫を後世に残すため、枯死する前の一本松の上部から採取された枝を接ぎ木して苗木が育成され、一本松の遺伝子を受け継ぐ7本の貴重な後継樹が育っている。

伐採前の「奇跡の一本松」

後継樹の贈呈・植樹と「絆の日」制定
両市市民の末永い交流に願いを込めて

東日本大震災10年の節目にあたり、両市の友好の証、交流のシンボルとして陸前高田市から名古屋市に「奇跡の一本松」後継樹が寄贈され、令和3(2021)年3月23日、両市の市長及び議長出席のもと東山動植物園内に整備された「きずなの広場」において植樹された。この後継樹は、生命(いのち)の大切さを後世につなぐとともに、両市の交流のシンボルとして大切に育成されている。

また、10年前の平成23(2011)年3月23日は、本市職員が震災直後、初めて陸前高田市に赴き、“行政丸ごと支援”の契機となった特別な日であることから、これらを記念し、本市は3月23日を「絆の日」と定めた。名古屋市民が陸前高田市民に思いを寄せ、東日本大震災の記憶や教訓を忘れずに、防災について考える機会とするため、毎年3月23日を中心として、「絆の日」の趣旨を広く市民に普及するとともに、陸前高田市との交流事業や東日本大震災の記憶や教訓の伝承、支援の経験等を踏まえた南海トラフ地震等の防災啓発・教育などが実施される。

「奇跡の一本松」後継樹記念植樹式典

「きずなの広場」案内板と両市の市長と議長

式典で参加者に向けあいさつをする陸前高田市長

東山動植物園に植樹された
「奇跡の一本松」後継樹

10年間の支援で培われた絆

両市の絆、交流は後継樹とともに大きく育まれていく

被災によってつらい思いをしたにも関わらず、
多くの名古屋市職員を受け入れ、気遣ってくれた陸前高田の人びと。
我慢強く、心優しい東北の風土からの贈り物、
陸前高田市民の想いの詰まったこの後継樹は、
これから名古屋の地にしっかりと根付いていくだろう。

東山動植物園に植樹された「奇跡の一本松」後継樹
毎年3月23日は陸前高田市との「絆の日」

高田松原津波復興祈念公園の「奇跡の一本松」
（令和2年11月13日撮影）